

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	京都府教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
京都府	特別支援学校	知的障害 肢体不自由	きょうとふりつちゅうたんしえんがっこう 京都府立中丹支援学校

2 研究課題

障害のある子供たちが、特別支援学校を卒業後、地域で働きながら生活するために必要な力をつける取組と就労支援のあり方についての研究を進める。

3 研究の概要

高等部中・軽度知的障害の生徒が希望する進路（企業就労）を実現するための就労支援のあり方を研究の中心とし、全ての児童生徒の将来像（働きながら生活する姿）をイメージしたキャリア教育の推進と教職員及び保護者、関連企業の意識改革、職場・職域開拓に取り組む。

○就労支援ネットワーク会議の立ち上げ
綾部・福知山地域の就労に関わる機関を交えて、生徒の就労を促進する方策について協議する。

○企業・高等技術専門校と連携した取組
継続的、または定期的な実習の実施や職場見学を実施し、生徒の働く意欲やスキルの向上を目指す。

○職場・職域開拓
全教職員による企業訪問により企業の意向を把握するとともに学校や生徒への理解を深め、雇用や実習先の拡大を目指す。

○就労支援コーディネーターの活用
企業や関係機関と連携のもと、職域開拓を進め、実習の受け入れ先の拡大を図るとともにデータベース化して今後の就労支援に資する。

○教職員・保護者研修
専門家の講話や企業見学、教職員の企業研修を通して、働くために必要な力等について

て学ぶ。

○就労支援セミナー開催

企業に対して、障害者雇用企業や生徒自身が語るセミナーを企画し雇用促進につながる啓発を行う。

○地域における児童生徒理解を促進する取組の実施

生活単元学習や作業学習等を発展させ、地域での発表や交流の機会を通して、生徒の力を発信する。

4 研究の成果

この事業を通して、地域の方々や労働関係機関と連携ができたことが大きな成果であると考えている。学校の取組や児童生徒の力を様々な形で発信したことで、地域の方や企業に中丹支援学校の存在を意識していただくことにつながった。

また、教職員も地域の障害者雇用の実態や企業の雇用に関するニーズ、企業で働く卒業生の姿を知ることにより、児童生徒の将来像をイメージし日頃の教育実践に生かしていく基盤づくりにつなげることができた。

○就労支援ネットワーク会議

9つの労働関係機関と学校関係、計17人で会議を3回実施した。学校内・作業学習の様子の見学や雇用拡大・就労継続に対する課題などの意見交流ができた。また、構成委員の方に学校や行事に足を運んでいただくことができ、学校取組や生徒理解へとつながった。

○就労支援セミナー

ハローワーク、北京都ジョブパーク(府労働機関)、本校が連携して就労支援セミナーを開催し京都府北部の他の2校(府立舞鶴支援学校、府立与謝の海支援学校)と合同で特別支援学校の取組を発表できたことで、参加企業に障害者雇用の実態や支援のあり方、特別支援学校の生徒の力を広く伝えることができた。

○全教職員による企業訪問

全教職員が二人一組(53ペア)で計427社に企業訪問を行い、そのうち職場見学について可能であると47社から回答があった。この47社に対して就労支援コーディネーターや進路指導部教員が更に連携を深め、中には職場実習につなげることができた企業もある。この取組を通して、教職員の就労に対する意識向上が見られた。

○就労支援コーディネーターの活用

就労支援コーディネーターが地域の企業や経済団体を訪問し連携を深める中で、学校の取組を紹介する機会を多く得ることができ、地域の企業に障害者雇用について意識を高めてもらえるよう直接働きかけることができた。

○プロの指導による清掃スキルのトレーニング

校内での清掃実習において、ビルメンテナンス関連企業から継続的に18回の指導を受けた。床清掃からトイレ清掃へと発展し、生徒のスキルアップにつながった。また、指導内容をまとめた清掃マニュアル冊子を作成した。

○福知山高等技術専門校での実習、企業見学

高等技術専門校での連続した実習を行うことにより、生徒の働くことへの意識の弱さ

や通勤上の課題等、日々の学校の中での実習ではわからなかった課題を多く発見でき、次の職場実習に向けて改善できるよう指導することができた。企業見学においては企業就労した先輩の会社を訪ね、先輩の働く姿を見学したり、話を聞いたりすることで、生徒が自身の卒業後の姿をイメージすることにつながることができた。

○地域と連携したキャリア教育

地域巡回製作品展や高齢者施設でのボランティア活動を通して、生徒が地域の方と触れ合う中で達成感や自己有用感を味わうことができた。また、地域に児童生徒の力を発信することができた。

○講話による研修会、現地視察等

本校だけでなく地域の教職員、保護者へも参加を呼びかけ、外部専門家からの講話や先進校、企業視察を行い、障害のある児童生徒の就労や卒業後の生活に必要な力について視野を広げる機会となった。

5 課題と今後の方策

外部専門家の講話や全教職員による企業訪問、地域と連携したキャリア教育など多くのことに取り組んだ。平成26年度は学校から企業への発信を精力的に行い、いろいろな方面に一石を投じることができた。平成27年度は発信の受け手である企業や関係機関等の感触やニーズを把握しながら、丁寧に双方向での連携を図り取組を進める。また、更なる職場・職域開拓をすすめ中度知的障害の生徒の企業就労をめざす。

○就労支援ネットワーク会議

新たに労働関係機関と連携でき、学校の取組に興味を持っていただけたことは大変よかったが、初年度ということもあり、学校からの発信と意見交流が中心だった。今後も継続してネットワーク会議を開催し労働関係機関から就労や企業連携等についての助言をいただき活動につなげる。

○全教職員による企業訪問

個々に地域の企業を回る中で、本校の取組や生徒の実態について地域の方々への理解が不十分であることがよく分かった。また、企業の方々に小・中学部の教員が高等部の実践を十分に語れないことや、地域の企業の実態を知らないという課題が上ってきた。今後は、学部間交流や校内研修等を通して教職員の誰もが自信を持って自校の教育や生徒の様子等を語れるようにする。またあらゆる機会をとらえ特別支援学校の理解啓発を行う。さらに、PTAとも協働し理解啓発の取組を展開する。

○就労支援コーディネーターの活用

就労支援コーディネーターが府立特別支援学校の元校長であったことから、学校の取組や生徒の実態については十分理解した上で活動を展開できた。しかし、企業が持っている障害者雇用への不安を取り除くことや企業内での具体的な支援を提示することに難しい面があったため、企業のニーズに対応したコーディネートが必要である。

○プロの指導による清掃スキルトレーニングや福知山高等技術専門校実習

継続した実習を通して生徒の作業スキルは著しく向上した。この技術を確かなものとするため、また常に目標を持って取り組むことができるよう作業検定に発展させ、生徒

自身の達成感を持たせていきたい。この検定については平成27年度の取組において舞鶴支援学校とともに作業ごとの基準を明確にし、京都府立特別支援学校で共通して活用できるものにしていけるよう企画する。

○平成26年度卒業生進路状況

平成26年度当初は9人の生徒が企業就労を希望していた。2月末の結果は企業内定5人、高等技術専門校進学2人、福祉事業所就労移行1人、未定1人である。生徒の職場実習の時期を見直し働くことへの課題の早期把握と指導に努めるとともに、職場・職域開拓をすすめ複数の職種での実習を可能にしていくことが課題である。